

平成28年度 第4回小樽市人口対策会議 概要

- ・日 時 平成29年3月27日（月）16時00分～17時30分
- ・場 所 市役所別館3階 第1委員会室
- ・出席者 鈴木座長、皆川委員、猪口委員、佐林委員、高橋委員、西山委員、若狭委員、
工藤委員、新谷委員、山川委員、石川委員、宮澤委員、海野委員、上林委員
- ・事務局 総務部企画政策室長、企画政策室主幹、企画政策室主査

事務局 <開会宣言>

鈴木座長 <議事（1）小樽市総合戦略（改訂案）パブリックコメント実施結果について、事務局から説明を求める>

事務局 <資料1に基づき説明>

鈴木座長 <事務局からの説明に対し、意見や質問を求める>

佐林委員 No. 7の働く場所、収入源の確保・創造について、まだ具体的な段階ではないので検討ということでしたが、子育てなどの環境整備はもちろん大切だと思いますが、雇用の場の確保や地場産業の成長が重要です。

これまでも会議の場で継続的に発言させていただいてきましたが、より具体的な戦略が入ってもよいのではないかと考えています。すぐできることと中長期で検討しなければならぬことがあると思いますが、すぐできることはないのかと思います。総合戦略は5年計画なので、5年かけて検討するということでしょうか、すぐにできることはないですか。

事務局 取組としましては、IT関連企業の誘致助成や企業誘致支援員を東京に配置するといった新しい事業を展開しているところでして、これらが「まちなかの雇用機会の創出」に含まれているという考えです。

より具体的な書きぶりについては、この先、事業の追加などが出てきましたら補強していきたいと考えておりますし、創業や事業承継に関する部分につきましては、まだ施策にぶら下がる事業が不足していると認識しておりますので、引き続き事業部と話し合いの上で来年度以降も検討させていただきます。

鈴木座長 佐林委員は信金の方ですから、小樽の商業を現場で見ているので経済の状況はどうですか。

佐林委員 人口減少においては雇用の場の創出と、20～29歳の若年層が流出している現状をどうにかしなければならぬと思います。地元には仕事がないということのほか、地元の仕事では収入や条件とのアンマッチがあると思います。そこに向けた施策を充実させていくことが必要ではないでしょうか。希望する雇用がないということが問題だと思います。地場産業が成長して元気になることが重要になってきますので、そのための施策を行政として行なうことを求めます。

鈴木座長 意見は3名の方から出されたということで、1人で複数の意見を寄せていることになります。No. 5～7は移住されてきた方からでしょうか。外から小樽を見ると、

気がつくこともあるのかもしれないですね。

佐林委員 K P I の設定について、平成 3 1 年度が目標となっていますが、細分化して年度ごとの目標値やスケジュールを具体的に示したほうがわかりやすいような気がします。

鈴木座長 K P I の目標値については、既に達成してしまっているものもありますね。

事務局 K P I の見直しは適宜しておりまして、後ほど、戦略の改訂案の部分で説明させていただきます。施策 K P I がそのまま事業 K P I でしたら、事業との関連性も明確にうたえるのですが、基本目標については、事業との関係に濃淡がどうしても出てきてしまいますが、今回新たに追加しております事業につきましては、年度ごとのスケジュール感でお示ししております。現状で追加できる K P I については事業として追加掲載しているものです。

雇用対策、経済対策につきましてはまだ不足しているということですので、引き続き事業の追加を検討したいと考えております。

佐林委員 「検討する」があまりに多いので、可能であれば、「何年度までに検討する」ですとか、いつ実施するのかを示すことが必要なのでは。

検討の中にも、ずっと検討するものや、平成 2 9 年度までに検討して、その後実施するという違いがあると思います。

事務局 現状の改訂案については、今できることを登載しているという認識はあります。できれば、少し先の方向性などを示せるように平成 2 9 年度以降も各事業部とも議論して拡充していきたいと考えております。

鈴木座長 N o . 1 の意見にありますように、どの地域を優先的に進めるかなんて、明言したら大変なことになってしまいますね。なかなか方向性を示すのは難しいと思います。

N o . 4 にある生涯学習プラザ「レピオ」の稼働率などは把握していますか。結構利用されているかと思しますので、そのあたりを追記するとよいかと思います。

事務局 施設で把握していると思います。具体的な数字を入れられるか調整し、整理します。

工藤委員 N o . 5 の移住促進のプロモーションについてですが、他都市の例を見ますと、体験型移住施設に住んでもらい、移住につなげるという取組があります。小樽市でも同じような取組はありますか。

事務局 お試し移住施設については、市で直営しているものはなく、民間が管理している物件を市の H P に掲載しています。今回、地方創生拠点整備交付金事業として旧寿原邸の改修を行ない、そこでお試し移住としてちょっと暮らしのようなことができないか考えておりますので、その中で、少しずつ体験メニューも増やしていきたいと思っております。

工藤委員 小樽市内も空き家が多いですね。所有権の問題など色々課題があると思いますが、それらの空き家を有効活用するという考えはありますか。

鈴木座長 空き家対策の委員会も立ち上がりましたね。

事務局 小樽市空家等対策会議が平成 2 8 年度に設置され、除却を中心に検討している現状ですが、地方創生拠点整備交付金を活用して旧寿原邸を整備し、その先の事業も現在国に申請中であります。空き家対策ということで空き家の調査やマッチングなど行ないながら、場合によってはお試し移住施設として利活用することも考えていかなければ

ばならないと思っております。

鈴木座長 「小樽の気質に会いそうな地域を選定し」とありますが、どこでしょうね。
やはり、移住PR先として大都市圏は外せないと思えますし、知名度の高い小樽のブランド力を活かすことが重要ですね。

鈴木座長 <議事(1)について、他に質問や意見を求めたが特にないため、次に進める>
<議事(2)小樽市人口対策会議における各委員の意見について、事務局から説明を求める>

事務局 <資料2に基づき説明>

鈴木座長 <事務局からの説明に対し、意見や質問を求める>

高橋委員 地域経済を考えたときに、小樽市内で調達できるものは市内事業者で、という考えを具体的に表すと「地域内循環型」となると思いい見しました。

海野委員 保育士が給料などの面で条件のよい市外に転出していると聞きます。何かいい方法はないものかと思いました。

鈴木座長 小樽市の保育所の状況はどうでしょうか。待機児童はいますか。

事務局 国の基準という待機児童はませんが、希望する保育所に入れない方は一定程度います。

鈴木座長 慢性的に保育士は不足しているのでしょうか。

事務局 新年度に向けて保育士を採用するなど、確保に努めておりますが、全国的に保育士が不足している状況にあるかと思っておりますので、よりよい条件を求めて流れていってしまうという課題はあります。

鈴木座長 処遇改善を図ることが必要でしょうね。

鈴木座長 高校生の市内就職のための合同説明会が開かれたようですが、高校生も市内になかなか留まらないという現状があるのでしょうか。市内に受け皿を作って、参加者の拡充が図られればよりよくなるのでは。

事務局 今は就職については売り手市場ですので、よりよい条件を求めて市外の企業に流出していると認識しております。ただ数を確保しても、条件等が合わなければならないということで、ミスマッチ解消のための方策を今後探っていかなければならないと考えております。

鈴木座長 高橋委員は中小企業家同友会で現場をご存知だと思いますが、高校生はやはり道外などに流出しているのでしょうか。

高橋委員 6割程度が道外や札幌に出て行ってしまっています。企業に力がないからよい条件で雇用できないのが現状です。人手不足ではあるけれど、条件が合わないのです。
地元に残らせたいと考えるのであれば、施策として地元高校生を雇用したら補助金を給付するような制度があれば、給与に上乗せできるので少しは条件が改善すると思えます。

佐林委員 高卒者の3年以内の離職率が高く、大卒でも3年以内にやめる割合が高い。その理由や背景を解明することも必要だと思います。

鈴木座長 地元から離れて就職していると、離職率が高いのではないかと感じていますが。大学や高校でもキャリア教育を行わなければならないと取り組んでいますが、結果が出ていないようですね。教育機関も考えていかなければならないと思っています。

佐林委員 働き方改革といわれていますが、かつてより働く環境を重視して就職先を選んでいるように感じます。

鈴木座長 うちの大学も卒業して離職してしまった人が次に希望するのは公務員です。近年は就職状況が非常によくなっているにも関わらず、公務員人気が高くなっていますね。

山川委員 不登校が増えて、ひきこもりの若者が増えているという状況もあり、時代が変わってきていると感じます。何が要因なのか検証する必要がありますし、家庭教育、学校教育の中に何か問題があるのではないのでしょうか。仕事に対して責任感を持つというような部分で、決して無関係ではないと思いますので、見過ごしてはいけませんね。

佐林委員 離職率が高いことにもつながっていると思います。
不登校に対する取組として、退職した教員がNPOを立ち上げてというものを報道で見ましたが。

上林委員 教育委員会と民間団体である「わくわく共育ネットワーク」が協力して、図書館やレジオに不登校の児童生徒の居場所を作るための取組をしております。
来年度から小中学校でモデル校を選定してキャリア教育を始めます。高校生のキャリア教育とは違い、働くということに対する考えを学び、職業観を身に付ける機会としたいと考えております。
ひきこもりの問題についても、30代40代でもいると聞きますので、対策が必要と考えています。

鈴木座長 インターンシップは随分前から行なわれていますが、企業はいいところしか見せないで、就職してみたらイメージと違っているということが起きてしまい、逆にそれが離職の原因になっているのかもしれないですね。
真のキャリア教育とは何なのかを考えなければならないですね。

宮澤委員 私の考えと、現実的な課題のような部分をお話させていただきます。
まず、2番目の子育てしやすい環境づくりについて、市内3か所に地域子育て支援センターが設置されていますが、そこで実施されている講座について、定員が少ないと思います。応募しても参加できない状況ですので、方法や内容を変更して、市内で子育て中の方がわくわくするような取組になることを望みます。
あと、市内中心部に子育て支援センターのような施設がないので、いつでも立ち寄れる拠点があるとよいと感じていました。
次に、3番目の保育士についてですが、小樽市でも保育士が不足しているという話を聞きまして、自分が保育士の資格を取ろうと思い、勉強を始めました。保育士になるには国家試験に合格するか、2年の養成校を卒業する必要があります。学校に通おうかと考えましたが、学費などで最低でも年間100万円程度かかり卒業までには2百数十万円かかります。市で奨学金の制度などがなく調べましたが、ありませんでした。貸付の制度は、所得制限などがあるという説明を受けました。この先、もっと保育士を増やしたいと考えているのであれば、高卒者に奨学金を貸し付け、資格取得

後に小樽市内で働けば返還額が減額されるといった仕組みがあるとよいのではないかと感じました。

私は国家試験に合格し、先日、保育士就職支援セミナーに参加してみましたが、2名の参加しかない状況でした。もっと多くの潜在保育士が小樽市内にはいると思います。なぜ、そのような方たちが出てこないのかと考えますと、保育所を見学して感じていたのですが、臨時職員と正職員の仕事内容がほぼ同等でありました。小樽市ではフルタイムの臨時職員ばかりを募集しているので、希望者がいないのではないかと考えます。復職したいと考えていてもフルタイムでの勤務は難しいと聞きますので、雇用形態を半日だけなど柔軟にしていただけたらと思います。

最後に、4番目の意見についてですが、2018年度に商業高校と工業高校が統合しますが、どのような高校ができるのか情報が全然ないように感じます。子どもが地元に残るような教育をする学校にして欲しいというような、経済界や保護者の声をまとめて、市が北海道教育委員会に声を届けたいと思います。

鈴木座長 子育て支援センターが赤岩、奥沢、銭函の3か所ですが、市の中心部ではない理由がありますか。

事務局 市の保育所に併設しており、市の中心部には市直営の保育所がないためです。いただいた御意見につきましては、原部に伝え参考にさせていただきたいと思えます。なお、給付のようなものにつきましては、高校生の地元定着について補助金を出してはどうかという意見などもありますことから、ニーズを捉えながら、慎重に検討していかなければならないと考えております。

鈴木座長 市立保育所の勤務時間をフレキシブルにできないかという部分については、十分検討の余地があるよう思えます。

皆川委員 地域子育て支援センターについて、おそらく保育所の改修をする中で整備してきたのかと思います。平成29年度から検討を行うということですので、経過を見守りたいと思いますが、これまで、この会議の中でも子育て講座の定員が少ないといった声を聞きましたので、意見として出させていただきました。

鈴木座長 子育て講座の定員が少ないのは施設や人員の関係もあるかと思いますが、ニーズがあるということですから、拡大できたらいいと思います。商業高校と工業高校の統合についてですが、道立高校ですので、市には詳しい情報が下りてこない現状があるかと思えます。

上林委員 元が商業高校と工業高校ですので、商業系と工業系の学科になるだろうと考えております。小樽市としましては、小樽の産業にふさわしい高校にして欲しいと要望は出しています。ガラス工芸などのものづくりや、食に関する学科や店員養成、情報処理、デザイン科などはどうかと縷々出しております。また、語学についても、韓国語・中国語・ロシア語・英語を学科ではなくコースで選択できるように要望しているところです。おそらく単位制の学校になると思います。就職を意識した、地元企業での実習や就学中にキャリアを体験できる学校になるようお願いしています。道教委では職業高校で単位制の学校は前例がないということで、全国的にも初めてであるため、現在、文部科学省と細かな調整をしているというように聞いています。

鈴木座長 関係機関と連携しながら、小樽らしい、いい高校にして欲しいと思います。

鈴木座長 <議事（2）について、他に質問や意見を求めたが特にないため、次に進める>
<議事（3）総合戦略改訂案について、事務局から説明を求める>

事務局 <資料3に基づき説明>

鈴木座長 <事務局からの説明に対し、意見や質問を求める>

高橋委員 空き家対策事業で除却・解体された件数を指標にしていますが、現在は法律でできないために現状値が0件ということだと思います。これは条例を制定したりすることですか。

事務局 小樽市空き家対策計画を策定しましたので、特別措置法に基づき、除却・解体を進めて行くこととなります。KPIの設定についても空き家等対策計画に沿う形となっております。

鈴木座長 目標値を達成しているものでも、全てについて上方修正しているわけではないですね。

事務局 31年度目標値を達成しているものにつきましては、事業部に見直しを依頼しましたが、指標によっては年度により実績値にばらつきもあることから、対応可能なものについて上方修正しているところです。

宮澤委員 30ページの音読推進事業で、KPIでは家庭学習としています。つながりが見えません。家庭学習はもっと幅広いと思います。

鈴木座長 音読推進事業は以前からある事業ですね。

事務局 KPIの設定については適当な指標を当てはめることが難しく、把握可能な指標を使っているのが現状であります。妥当性も含めて、より適当な指標を検討したいと考えております。

鈴木座長 教育委員会では、授業で音読に取り組んでいる学校数を把握していると思いますので、それを指標としてもよいかもしれないですね。

事務局 教育委員会に確認し、適当な指標が設定できないか調整させていただきます。

鈴木座長 <議事（3）について、他に質問や意見を求めたが特にないため、次に進める>

鈴木座長 <議事（4）意見交換として、会議に参加した感想や、今後の人口対策や地方創生で重要と考えることなどについて、各委員から順に意見を求める>

皆川委員 地方創生の取組は難しいと思います。しかし、総合戦略の策定から既に2年度目に入っていますので、KPIの項目を早急に固めて、具体的に進めていく必要があると思います。

また、転入者へのアンケートを行なって、移住の理由などを把握することで移住プロモーションに役立てることができるのではないのでしょうか。

猪口委員 人口減少対策というのは本当に難しい課題で、具体性がないという意見もありましたが、着実に進められているという印象を持っています。

地方創生の取組というのは、そもそも、「行政だけでは何もできない」という発想から始まっておりますので、「皆さん、市役所に対して意見を言いますが、自分たちは何

をやるのですか」と問われているということをよく理解して、来年度以降も進めていけたらよいと考えております。

佐林委員 繰り返しになりますが、重点施策となるのは産業政策だと思います。現状では少し物足りないと感じております。産業政策が停滞することになりますと、小樽経済が今まで以上に疲弊してしまいますし、人口減少など色々な面に影響すると思いますので、重点項目についていま一度検討していただきたいです。

あと、具体的な戦略を立てて、K P I ・数値目標に結び付けてください。P D C A サイクルを回すうえで、まだ、事業の結果だけで内容の見直しをしていないように見受けられますので、これからお願いします。

高橋委員 人口問題というのはイコールまちづくりだと思います。重要な課題ですので、このような会議で進捗を確認することが必要です。人口減少が止まったときには不要になるかもしれませんが、それまでは、この会議は必要だと思います。

西山委員 空き店舗や空き家対策についてですが、現在は除却に軸足を置いた施策ということですが、日本政策投資銀行の子会社でシンクタンクの価値総研が国交省とセミナーやフォーラムを開催するほか、事例紹介をしております。空き家・空き店舗をリノベーションして使うというセミナーなどもありますので、後ほど、事務局に資料提供させていただきます。

あと、幸福度指標についてとても面白いと思いますので、熟度が増してきましたら、ぜひ公開してアピールしていただけたらと思います

若狭委員 産業振興による雇用の場の確保というのが一番だと思います。働く場所があれば人が集まると思います。

私、このたび異動があり小樽を離れることとなりました。4年間でしたが、非常に住みやすい街だという印象です。これまで12か所経験しておりますが、その中でも一番です。何よりも気候がよく、雪も慣れてしまえば問題なく、食べ物もおいしいです。難があるとすれば、病院関係が少し手薄かと感じましたが、総合的に見て大変住みやすい街でした。

今後、より魅力ある小樽になることを期待しております。

工藤委員 皆さんがおっしゃっているように、産業育成も大きな柱になると思いますが、これからの小樽のことを考えますと、インフラ整備である駅前再開発やJ R ・中央バスなどの地域公共交通について、10年後、20年後を見据えたまちづくり、方向性についての議論も平行して進めたらよいと思います。

新谷委員 高校を卒業した娘の友人が、大手地場産業に就職しましたが、離職してしまいました。娘は市外の専門学校に通いましたが、小樽市での就職を希望していました。しかし希望する就職先はありませんでした。

私は子育て支援関係という立場で参加しておりましたが、母親の立場で見て、子どもたちの育て方などを考える機会をいただきました。小樽の将来を担う子どもたちが育つことを願っております。

山川委員 若い人が働ける職場が必要です。安心して子育てできる環境を整えば、若い人たちが定着するのではないかという思いでおります。

石川委員 (都合により、途中退席されました。)

宮澤委員 私はよその町から小樽を選んで来ました。小樽には魅力がいっぱいです。私が考え

る幸福感は、子どもがこのまちに産まれてよかった、年配者がこのまちで最後を迎えられてよかったと思うことであり、年代が違っても共通していると思います。そのようなまちにしたいと思ひますし、なつて欲しいと願つております。

このような会議で、子育てや教育の話をつたくさん出していただいたことに感謝しております。これからも力を合せて、若い夫婦が小樽に残つて人口を増やしてくれるような取組を進めていけたらと思ひています。

海野委員 人口対策ということで、市外に流出してしまう要因や対策についてまとめられていますが、ここに載つていること以外にもまだまだアイデアがあると思ひます。

市長が町内会長と懇談する機会などがあると思ひますが、そのような場を利用して、市長から問ひかける形で参加者からの意見を聞けば、実際に小樽に住んでいる人が考へている案が出てくるのではないのでしょうか。

上林委員 市政運営について意見を聞く機会というのは、意外と少ないものです。未来の小樽をどうするのか、ということ考へるにあつては、多くの方の声を聞く必要があると感じております。これからも色々な機会を捉えて話を聞くようにいたしますので、よろしくお願ひします。

鈴木座長 最後に私からも一言。

小樽は知名度が大変高く、憧れを抱かれています、ブランド力がある数少ない自治体だと思ひます。これからは、このような点を最大限に活かしていただきたいです。

小樽商科大学でも「小樽学」という講座が開設されており、歴史や文化を学生に教へております。このような取組を小・中・高校でも進めて、市民に小樽をもつと知つていただきたいと思ひます。

人口が減つていくというのは致し方ないことで、その減少するスピードをいかに緩やかにするかということが重要だと考へております。そのためには、住民が小樽を好きになることが必要です。幸福度指数を伸ばしていくことを目指して欲しいです。

この幸福度指数は小樽市独自のものですが、総務省などが取り入れて全国の自治体をランキングしてみても、そこで小樽が上位に入ることがあれば、非常に大きなことだと思ひます。

最終的には市民が幸せに暮らせるまちを目指して、この会議の目標でもありますので、大学として、また関係者として貢献したいと考へております。

鈴木座長 今年度は今日が最終回となります。委員の皆さんの任期は3月31日までです。来年度につきましては、後日、事務局から各団体に連絡がありますのでよろしくお願ひします。

事務局 宮澤委員から御意見のありましたKPIにつきましては、教育委員会と協議させていただいたうえで確定し、3月31日付で改訂版を発行いたします。

鈴木座長 以上を持ちまして平成28年度第4回小樽市人口対策会議を終了いたします。本日は長時間にわたり大変お疲れ様でした。ありがとうございました。